

本の喜び誰にでも、重度心身障害者向け配本 中央図書館が取り組み（岡山）

岡山市立中央図書館（北区二日市町）が、重度心身障害の児童の自宅や入・通所する施設に、希望する図書を届ける配本サービスに取り組んでいる。録音図書の郵送や代読など視覚障害者へのサービスは各地の図書館で拡充されつつあるが、重度心身障害者向けのサービスはまだ少ないという。担当する同図書館司書の三船充是さん（40）は「利用しやすい人のニーズにだけ合わせるのではなく、図書館はすべての人に平等であるべきだ」と訴える。

「本を持ってきましたよ」。障害児に医療サービスなどを提供する旭川療育園（北区祇園）を9月10日、三船さんが多くの本を積んだ車で訪れた。入所する3～6歳の幼児6人はその中から計75冊を借りた。

三船さんはその場で絵本の読み聞かせも行い、迷路が載った絵本を借りた男児（6）は「絵本を読んでくれてよかった。また来てほしい」とにつこり。施設職員の金森巡子さん（42）も「お願いした本が借りられて、子供たちも毎回うれしがっている。園には本が限られているので、本当にありがたい」と大喜びだ。

同図書館が、重度心身障害の障害児らの家庭への配本を始めたのは2012年。現在では、事前に利用者の要望を聞いて選んだ約600冊の本を専用の車に載せ、毎月1回、市内の障害児がいる7世帯と4施設

に届ける。

利用者は、借りたい本を車の中から直接、選ぶことができ、障害の影響で移動が難しい場合は、玄関や枕元まで本を運ぶこともあるという。選んだ本は次に来る時まで借りることができる。

「重度心身障害は希少な病気である場合が多く、病院やインターネットでも病気やリハビリテーションに関する情報は少ない。本来、最も情報が必要な人たちが、行政サービスからかけ離れたところにいる」。自身も重度心身障害を抱える子を持つ三船さんは、図書館に行く時間的余裕がないなど、障害者がいる家庭の状況を十分過ぎるほど理解している。

そこで、上司らに掛け合って始めたのが配本サービスだ。障害児がいる家庭が求める本や情報を事前に調べ、本を運ぶ車には、子供が希望する本ばかりでなく、保護者の療育に役立つ本も載せるようにしている。幅広いジャンルの本を用意することで、その家庭の家族全員が楽しめるようにするなど、配慮が行き届く。

同図書館は希望があれば、今後も貸し出し先を増やす。さらに、さまざまな病気で病院などに長期入院中の子供たちにも本を貸し出すサービスも新たに展開したい考えだ。

（毎日新聞・岡山 2015年9月15日）